

1 この科目の構成について

教科	地理歴史科	科目	地理探究			単位	3	単位
対象コース	一貫・進学・総合	コース	対象クラス	3	年	1, 2, 3, 理系5, 6組		
使用教科書	新詳地理B（帝国書院）新詳高等地図（帝国書院）							
使用副教材	サクシード地理（啓隆社）、地理の点数が面白いほどとれる本（角川）							

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

私達の世界は、どのような資源や産業の生産活動により成立しているのでしょうか。そして、その生産活動は、どのような変化を遂げるのでしょうか。資源・産業に関する知識を深め、今までの変化、これからの変化を読み取る力を身につけて下さい。私達の世界は、さまざまな指標を用いることにより、さまざまな地域に区分されています。指標である自然・産業・人種・民族・国家に関する知識を深め、地域の特色及び地域間に共通するもの・相違するものを把握する力を身につけて下さい。私達の世界の現在と未来を正しく把握するために、情報を集める力・情報を分析する力を身につけて下さい。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- 1) 人口の分布・構成・移動・問題、村落と都市の立地・種類、都市の発達・機能・問題を学習する。
- 2) 生活文化の特色、人種と民族の分類・問題、国家と国家群の種類、領土問題を学習する。
- 3) 地誌今までの学習のまとめとして、各国の自然・産業・生活文化などを学習する。
- 4) 大学共通テスト対策として、重要語句の整理と深い理解をはじめ演習と復習が必要です。

(2) 家庭

- 1) 復習が必要です。授業で理解できなかった用語や内容はその日のうちに教科書などで確認しておきましょう。
- 2) 新聞やテレビのニュースを必ず見ましょう。問題を解く際に力強い味方になります。常識で解ける問題もある。
- 3) 模試の見直しの際、模範解答の解説書を熟読し、「正解の根拠・地図や統計読解のテクニック」を理解し覚えましょう。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。	世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価方法	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第4章 人口、村落・都市 1 人口	1 世界の人口 2 人口の移動			
		2 人口問題  	1 世界の人口問題 2 日本の人口問題 世界全体の人口は現在も増加し続けているが、国や地域によってはさまざまな理由で減少に転じている場合もある。世界各地の人口の分布や年齢別構成、移動には、どのような特徴がみられるのだろうか。	●	●	●
	5	3 村落と都市	1 集落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の成立と形態・機能 4 都市圏の拡大と都市の構造 【第1回考査】	●	●	●
		4 都市・居住問題 	1 発展途上国の都市・居住問題 2 先進国の都市・居住問題 3 日本の都市・居住問題 世界の都市が持続的に発展していくためには、どのような課題があるのだろうか。また、日本の都市にはどのような課題があり、それらを解決するために、どのような取り組みが行われているのだろうか。	●	●	●
	6	第5章生活文化、民族・宗教				
		1 衣食住	1 世界の衣服と食生活 2 世界の住居と衣食住の画一化	●	●	●
2	7	2 民族・宗教と民族問題  	1 世界の民族・言語 2 世界の宗教 3 さまざまな民族問題 4 多文化の共生に向けた取り組み 世界には、さまざまな民族が存在し、それぞれの言語を話し、多様な宗教を信仰している。民族や宗教の独自性はどのようにとらえることができ、各地にみられる民族問題の背景とどのように関わっているのだろうか。 【第2回考査】	●	●	●
		3 国家の領域と領土問題  	1 現代世界と国家 2 領土問題と解決への取り組み 3 日本の領域と領土をめぐる問題 国家の領域は、山脈や河川、経線や緯線などさまざまな境界線で区分されている。領域が定められたり、その領域が変更されたり、国家が新たに誕生したりすることで、どのような問題が起こっているのだろうか。	●	●	●
		第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分	1 地誌的な考察方法			
		第2章 現代世界の諸地域 1 中国	1 中国の政治体制と多様な民族 2 中国の食生活と農業・水産業 3 中国の工業化と海外進出	●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
3	8	2 韓国	1 韓国の歴史と生活文化 2 産業の発展と生活の変化	●	●	●
		3 ASEAN諸国	1 ASEAN諸国の歴史と文化・民族 2 ASEAN諸国の農業とその変化 3 ASEAN諸国の工業とその発展 4 ASEANの変化と課題	●	●	●
	9		【第3回考査】	●	●	●
		4 インド	1 急速な経済成長を支えた産業の発展 2 増加する人口と農村の変化 3 インド社会の変化と経済格差の拡大	●	●	●
		5 西アジアと中央アジア	1 イスラームと人々の生活文化 2 交易の歴史と乾燥地域の農業 3 豊富な資源を生かして進められる開発	●	●	●
		6 北アフリカとサハラ以南アフリカ	1 歴史的な背景によって形成された多様な文化 2 他地域との結びつきと人々の生活の変化 3 一次産品への依存とそれがもたらす課題	●	●	●
		7 EU諸国	1 EUの成り立ちと結びつき 2 ヨーロッパの多様な農業と政策 3 移り変わるEUの工業	●	●	●
		8 アメリカ合衆国	1 移民国家としてのアメリカ合衆国の発展 2 世界の食料生産の鍵を握るアメリカ合衆国 3 進展する科学技術と産業 4 多民族社会と移民増加に伴う課題	●	●	●
		9 ラテンアメリカ	1 ヨーロッパの影響が強い社会 2 大土地所有制と農業の変化 3 工業化の進展と経済発展	●	●	●
		10 オーストラリアと ニュージーランド	1 ヨーロッパの影響が強い社会 2 大土地所有制と農業の変化 3 工業化の進展と経済発展	●	●	●
	10 11 12 1	【大学共通テスト対策】	【第4回考査】	●	●	●

1 この科目の構成について

教科	地歴公民科	科目	日本史探究		単位	3	単位
対象コース	一貫・進学	コース	対象クラス	3 年	1、2、3 組	文系	
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）						
使用副教材	二高の日本史（本校教材）、最新日本史図表（第一学習社）						

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。
- 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。
- 3) 大学共通テストだけでなく、難関私立大学で出題されるレベルの語句にも触れるため、重要語句の整理と深い理解が必要です。

(2) 家庭

- 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。
- 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う（授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど）
- 3) 考査前等に出される課題をしっかりと取り組み、提出する。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力をつけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価方法	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
	4	2 幕府の滅亡と新政府の発足	①幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。 ②近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	●	●	●
		第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵	①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ②欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ③明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。	●	●	●
				●	●	●
	5	2 立憲国家の成立	①政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ②大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。	●	●	●
				●	●	●
		第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係	①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ②開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。	●	●	●
				●	●	●
	6	2 第一次世界大戦と日本	①第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ②第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。	●	●	●
				●	●	●
		3 ワシントン体制	①ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。 ②民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	●	●	●
				●	●	●
		第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展	①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。	●	●	●
	7			●	●	●
				●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
2		2 近代文化の発達	①伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ②義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。	●	●	●
		3 市民生活の変容と大衆文化	①労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。 ②大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。	●	●	●
		 				
		第15章 恐慌と第二次世界大戦				
		1 恐慌の時代	①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ②社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。	●	●	●
						
		2 軍部の台頭	①日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ②恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。	●	●	●
		8 3 第二次世界大戦	①日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ②第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。	●	●	●
		 				
						
		第16章 占領下の日本				
		1 占領と改革	①戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにとまなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 ②戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。	●	●	●
		9 2 冷戦の開始と講和	①東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。 ②連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。	●	●	●
						

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
3		第17章 高度成長の時代 1 55年体制 	①独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ②冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。 【第3回考査】	●	●	●
		2 経済復興から高度経済成長へ  	①朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ②消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。	●	●	●
		第18章 激動する世界と日本 10 1 経済大国への道  	①ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。 ②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。	●	●	●
		2 冷戦の終結と日本社会の変容	①冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。 ②科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。 【第4回考査】	●	●	●
		11 ■大学受験に向けての問題 12 演習	①大学共通テストで満点、難関私大で80～90点まで得点できるレベルまで演習を行い理解する。 ②大学共通テスト終了後は、国公立前期試験、難関私大用の歴史用語・頻出資料を理解する。 ③個々の生徒の受験校の過去問分析から、受験までのやるべき内容の確認を行い、合わせて個別添削を行う。	●	●	●
		1		●	●	●
		2		●	●	●

1 この科目の構成について

教科	地歴公民科	科目	日本史探究		単位	3 単位
対象コース	総合、美術	コース	対象クラス	3 年	4 組文系、 7 組情報、8 組	
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）					
使用副教材	二高の日本史（本校教材）、最新日本史図表（第一学習社）					

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。
- 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。
- 3) 大学共通テストだけでなく、難関私立大学で出題されるレベルの語句にも触れるため、重要語句の整理と深い理解が必要です。

(2) 家庭

- 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。
- 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う（授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど）
- 3) 考査前等に出される課題をしっかりと取り組み、提出する。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているととともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力をつけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価方法	定期考査／提出課題／発問評価	定期考査／提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

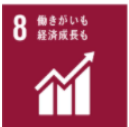
4 この科目の学習計画について (改行は Alt + Enter)

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。	●	●	●
	5	2 宝暦・天明期の文化	①江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ②幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。	●	●	●
			【第1回考査】			
		3 幕府の衰退と近代への道	①欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ②近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。	●	●	●
		4 化政文化	①化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ②都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。	●	●	●
	6	2 幕府の滅亡と新政府の発足	①幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。 ②近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	●	●	●
		第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵	①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ②欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。	●	●	●
			③明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する	●	●	●
		2 立憲国家の成立	①政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ②大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。	●	●	●
			【第2回考査】			

道徳

10 人や国の不平等をなくそう



年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
2	7	第13章 近代国家の展開				
		1 日清・日露戦争と国際関係 	①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ②開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。	●	●	●
		2 第一次世界大戦と日本 	①第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ②第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。	●	●	●
		3 ワシントン体制 	①ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して理解する。 ②民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	●	●	●
	8	第14章 近代の産業と生活				
		1 近代産業の発展	①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展にともなう社会問題(労働問題・公害問題)の発生と政府の対応について考察する。	●	●	●
		2 近代文化の発達	①伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ②義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。	●	●	●
	9	3 市民生活の変容と大衆文化  	①労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。 ②大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解する。	●	●	●
		【第3回考査】				
	10	第15章 恐慌と第二次世界大戦				
		1 恐慌の時代 	①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ②社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。	●	●	●
		2 軍部の台頭	①日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ②恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。	●	●	●

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
3	11	3 第二次世界大戦 4 質の高い教育を みんなに 5 ジェンダー平等を 実現しよう 16 平和と公正を すべての人に	①日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ②第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。 【第4回考査】	●	●	●
	12	■大学受験に向けての問題演習	①大学共通テストで満点、難関私大で80～90点まで得点できるレベルまで演習を行い理解する。	●	●	●
	1		②大学共通テスト終了後は、国公立前期試験、難関私大用の歴史用語・頻出資料を理解する。	●	●	●
	2		③個々の生徒の受験校の過去問分析から、受験までのやるべき内容の確認を行い、合わせて個別添削を行う。	●	●	●

1 この科目の構成について (改行は Alt + Enter)

教科	地理歴史科	科目	歴史演習		単位	2	単位
対象コース	一貫・進学	コース	対象クラス	3	年	1組文系、 2・3組文系	
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）						
使用副教材	二高の日本史（本校教材）、最新日本史図表（第一学習社）						

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか
 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。
- 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。
- 3) 大学共通テストだけでなく、難関私立大学で出題されるレベルの語句にも触れるため、重要語句の整理と深い理解が必要です。

(2) 家庭

- 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。
- 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う（授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど）
- 3) 考査前等に出される課題をしっかりと取り組み、提出する。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力をつけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価方法	提出課題／発問評価	提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4 ～	■日本史探究の授業を進める。	①日本史探究の授業を行い、内容を理解する。	●	●	●
2	10 ～	■大学受験に向けての問題演習	①大学共通テストで満点、難関私大で80～90点まで得点できるレベルまで演習を行い理解する。	●	●	●

1 この科目の構成について

教科	地理歴史科	科目	歴史演習	単位	2	単位
対象コース	総合進学	コース	対象クラス	3	年	4組
使用教科書	日本史探究『詳説日本史』（山川出版社）					
使用副教材	二高の日本史（本校教材）、最新日本史図表（第一学習社）					

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

- 1) 授業用テキストに歴史用語を書き込み、頻出重要文章に正確にマーカーや書き込みをすることが必要です。
- 2) その授業で説明された歴史用語や頻出重要文章を確実に理解するとともに、授業の流れを把握することも必要です。
- 3) 大学共通テストだけでなく、難関私立大学で出題されるレベルの語句にも触れるため、重要語句の整理と深い理解が必要です。

(2) 家庭

- 1) 予習として授業用テキストを読み、頻出重要語句にマーカーをする。
- 2) 授業で教わった内容の復習を欠かさず行う（授業用テキストを見直す。教科書へのマークなど）
- 3) 考査前等に出される課題をしっかりと取り組み、提出する。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力をつけようとしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価方法	小テスト／提出課題／発問評価	小テスト／提出課題／発問評価	提出課題／発問評価

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第16章 占領下の日本 1 占領と改革 	①戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 ②戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。	●	●	●
		2 冷戦の開始と講和 	①東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。 ②連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。	●	●	●
	5	第17章 高度成長の時代 1 55年体制 	①独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ②冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。	●	●	●
		2 経済復興から高度経済成長へ  	①朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ②消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらしたひずみである社会問題について理解する。	●	●	●
	7	第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道  	①ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。 ②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。	●	●	●
		2 冷戦の終結と日本社会の変容	①冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。 ②科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。	●	●	●
	8	■大学受験に向けての問題演習				
	9					
	10					
	11					
	12					
	1					

1 この科目の構成について

教科	公民	科目	政治・経済、公民演習	単位	2 + 1 単位
対象コース	一貫・進学・総合 (文系)	コース	対象クラス	3 年	1, 2, 3, 4 組文系
使用教科書	「高等学校政治・経済」清水書院				
使用副教材	「ニューコンパスノート政治・経済2023」とうほう 「最新政治・経済資料集」第一学習社				

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

- ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する
- ・諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる
- ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や合意形成や社会参画を入れながら構想したことを議論する力を養う
- ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

予習を前提に授業を行います。授業はスライドと板書を併用して実施します。必要に応じて、メモを取りながら授業を受けて下さい。必要なプリントは印刷して配布します。

(2) 家庭

予習してください。教科書を読み、準拠ワークや配布してあるプリントの穴埋めを確実に行ってきて下さい。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	現代経済のしくみと日本 ・諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 現代の国際社会と経済 ・現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について、基礎的基本的な知識を身につけ、理解を深めている。	現代経済のしくみと日本 ・現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できている。 現代の国際社会と経済 ・現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できている。	現代経済のしくみと日本 ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 現代の国際社会と経済 ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	①定期考査：年4回の定期考査 ②授業への取り組み：授業中の積極的な発言や授業に参加する姿勢 ③提出物：ノート、プリント、レポートの内容や提出状況	①定期考査：年4回の定期考査 ②授業への取り組み：授業中の積極的な発言や授業に参加する姿勢 ③提出物：ノート、プリント、レポートの内容や提出状況	①定期考査：年4回の定期考査 ②授業への取り組み：授業中の積極的な発言や授業に参加する姿勢 ③提出物：ノート、プリント、レポートの内容や提出状況

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第2章 現代経済のしくみと日本 テーマ 経済とは何か 1. 経済活動と経済主体	・分業と交換に基づき、生産や消費について、どのような社会でも経済的選択の問題を解決しなければならないことを理解する。 ・経済問題の解決の方法の違いによって市場経済や計画経済があることを理解する。	◎	○	○
		2. 市場経済の機能と限界	・家計、企業、政府が現代の経済における主要な経済主体であり、これら経済主体間の相互関係が国民経済を構成していることを理解する。 ・市場の競争性が維持されている場合でも公共財の提供がされにくいことや環境破壊など市場の失敗があることを理解する。	◎	○	○
	5	テーマ 経済体制の変容と経済思想	・消費者についての問題としては、情報の非対称性の観点から家計・企業・政府間の情報格差について理解する。	◎	○	○
		3. 国民経済と景気変動	・インフレは国民の所得や富の格差を拡大すること、デフレは景気後退や不況と結びついて国民生活に影響を与えることを理解する。	◎	○	○
		4. 物価とその変動	・経済成長と景気変動を図る様々な指標の特色を理解する。	◎	○	○
		5. 金融のしくみとはたらき	・金融とは経済主体間の資金の融通であることを理解する。 ・資金の需給は金融市場における金利の変化や株式市場と債券市場の動向によって調節されることを理解する。	◎	○	○
			・金融市場における金利の動向が消費や貯蓄、投資行動に影響したり物価や株価、景気の変動に大きな役割を果たしていることを理解する。 ・金融業務の自由化や金利の自由化に伴う金融に関する経済環境の変化による国民経済や家計や企業に向けての影響について理解する。			
	6	6. 財政のしくみとはたらき	・現代経済における有効需要政策の意味と役割及びその問題点について理解する。 ・金融に関する技術変革について理解し、これからの社会に及ぼす影響を考える。 ・財政政策は、投入された費用に対してそれから得られた効果を比較しながら最適な政策を選択していく必要があることを理解させる。	◎	○	○
			・財政を国家財政と地方財政の双方から把握し、両者の役割分担や連携の在り方について考える。 ・望ましい財政の在り方を考える。			
		7. 日本経済のあゆみ	・復興期と高度経済成長期の日本経済の特徴について理解する。 ・石油危機とバブル経済期の日本経済の特徴について理解する。 ・バブル崩壊と失われた20年の日本経済の特徴について理解する。 ・21世紀の日本経済の特徴を理解し課題を考える。	◎	○	○
		8. 企業の活動と役割	・企業は、提供された生産要素を結合して生産活動を行うことを理解する。 ・日本の労使関係の特色や、勤労の権利と義務、労働基本権の保障、労働条件の改善、労働組合の役割について理解する。	◎	○	○
	7	9. 労働問題と労働環境の変化	・中小企業にはベンチャー企業のように経済的に大きな役割を果たしているものがある一方で、下請けとして大企業との間には是正すべき格差社会が存在しているということを理解する。	◎	○	○
5 ジェンダー平等を 実現しよう 8 働きがいも 経済成長も 11 住み続けられる まちづくりを						

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
2	8	10. 社会保障制度の充実	・医療や年金といった社会保障費の財政負担が大きな問題となっていることを日本の社会保障制度の歩みや特色とともに理解する。	◎	○	○
		11. 農業と食糧問題	・農業問題としては、日本の食料自給率が他の先進国とくらべて低く、日本の農業の体質強化が課題とされていることを理解する。	◎	○	○
		テーマ 環境をめぐる問題	・市場経済においては市場の失敗として環境破壊があることを外部不経済の視点から理解する。	◎	○	○
	9	第2章現代の国際社会と経済	・比較優位の考え方について理解させ、自由貿易論と保護貿易論とを対比させながら、現代の貿易問題と関連させて理解する。	◎	○	○
		1. 国際経済のしくみ	・対外経済取引に伴い通貨間の売買が必要になることを理解する。その際、自国通貨と外国通貨の需給関係から為替レートが決まる変動相場制が採用されており、財やサービス、資本の出入りや物価水準、金利差など様々な要因が相場に影響を与えていることを理解する。	◎	○	○
		2. 国際収支と為替	・国際収支統計の基本的な構成と、日本の対外経済取引の現状について理解する。	◎	○	○
		3. 国際協調と国際経済機関の役割	・世界貿易機関や国際通貨基金などの国際経済機関が果たす役割や課題について理解する。	◎	○	○
		4. グローバル化と国際経済	・持続可能な社会を形成するための政策について理解する。	◎	○	○
		テーマ 国際経済における日本の役割	・新興工業国経済について特徴課題について理解する。	◎	○	○
			・国際経済の安定のために日本が果たすべき役割にはどのようなものがあるのかを考察する。			
			 			
			・現代日本の諸課題、現代の国際社会と政治、国際社会の諸課題は2年次に扱ったため、3年次では扱わない。			
	10	～ 共通テスト及び二次・私大対策問題演習				

1 この科目の構成について

教科	公民	科目	政治・経済	単位	2 単位
対象コース	情報クラス、美術	コース	対象クラス	3 年	7, 8 組
使用教科書	「高等学校政治・経済」清水書院				
使用副教材	「クローズアップ公共2023」第一学習社				

2 この科目の学習目標・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

- ・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する
- ・諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる
- ・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や合意形成や社会参画を入れながら構想したことを議論する力を養う
- ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

予習を前提に授業を行います。授業はスライドと板書を併用して実施します。必要に応じて、メモを取りながら授業を受けて下さい。必要なプリントは印刷して配布します。

(2) 家庭

予習してください。教科書を読み、準備ワークや配布してあるプリントの穴埋めを確実に行ってきて下さい。

3 この科目の評価規準と評価方法について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
評価規準 (内容のまとめごと)	現代経済のしくみと日本 ・諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 現代の国際社会と経済 ・現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について、基礎的基本的な知識を身につけ、理解を深めている。	現代経済のしくみと日本 ・現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できている。 現代の国際社会と経済 ・現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できている。	現代経済のしくみと日本 ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。 現代の国際社会と経済 ・よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	①定期考査：年4回の定期考査 ②授業への取り組み：授業中の積極的な発言や授業に参加する姿勢 ③提出物：ノート、プリント、レポートの内容や提出状況	①定期考査：年4回の定期考査 ②授業への取り組み：授業中の積極的な発言や授業に参加する姿勢 ③提出物：ノート、プリント、レポートの内容や提出状況	①定期考査：年4回の定期考査 ②授業への取り組み：授業中の積極的な発言や授業に参加する姿勢 ③提出物：ノート、プリント、レポートの内容や提出状況

4 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
1	4	第2章 現代経済のしくみと日本 テーマ 経済とは何か 1. 経済活動と経済主体	・分業と交換に基づき、生産や消費について、どのような社会でも経済的選択の問題を解決しなければならないことを理解する。 ・経済問題の解決の方法の違いによって市場経済や計画経済があることを理解する。	◎	○	○
	5	2. 市場経済の機能と限界 テーマ 経済体制の変容と経済思想	・家計、企業、政府が現代の経済における主要な経済主体であり、これら経済主体間の相互関係が国民経済を構成していることを理解する。 ・市場の競争性が維持されている場合でも公共財の提供がされにくいことや環境破壊など市場の失敗があることを理解する。	◎	○	○
		3. 国民経済と景気変動	・消費者についての問題としては、情報の非対称性の観点から家計・企業・政府間の情報格差について理解する。	◎	○	○
		4. 物価とその変動	・インフレは国民の所得や富の格差を拡大すること、デフレは景気後退や不況と結びついて国民生活に影響を与えることを理解する。 ・経済成長と景気変動を図る様々な指標の特色を理解する。	◎	○	○
	6	5. 金融のしくみとはたらき	・金融とは経済主体間の資金の融通であることを理解する。 ・資金の需給は金融市場における金利の変化や株式市場と債券市場の動向によって調節されることを理解する。	◎	○	○
			・金融市場における金利の動向が消費や貯蓄、投資行動に影響したり物価や株価、景気の変動に大きな役割を果たしていることを理解する。 ・金融業務の自由化や金利の自由化に伴う金融に関する経済環境の変化による国民経済や家計や企業に向けての影響について理解する。			
	7	6. 財政のしくみとはたらき	・現代経済における有効需要政策の意味と役割及びその問題点について理解する。 ・金融に関する技術変革について理解し、これからの社会に及ぼす影響を考える。 ・財政政策は、投入された費用に対してそれから得られた効果を比較しながら最適な政策を選択していく必要があることを理解させる。 ・財政を国家財政と地方財政の双方から把握し、両者の役割分担や連携の在り方について考える。 ・望ましい財政の在り方を考える。	◎	○	○
2	8	7. 日本経済のあゆみ	・復興期と高度経済成長期の日本経済の特徴について理解する。 ・石油危機とバブル経済期の日本経済の特徴について理解する。 ・バブル崩壊と失われた20年の日本経済の特徴について理解する。 ・21世紀の日本経済の特徴を理解し課題を考える。	◎	○	○
	9	8. 企業の活動と役割	・企業は、提供された生産要素を結合して生産活動を行うことを理解する。	◎	○	○
		9. 労働問題と労働環境の変化	・日本の労使関係の特色や、勤労の権利と義務、労働基本権の保障、労働条件の改善、労働組合の役割について理解する。 ・中小企業にはベンチャー企業のように経済的に大きな役割を果たしているものがある一方で、下請けとして大企業との間には是正すべき格差社会が存在しているということを理解する。	◎	○	○
5 ジェンダー平等を 実現しよう 8 働きがいも 経済成長も 11 住み続けられる まちづくりを						

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点		
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主
3	10	10, 社会保障制度の充実	・医療や年金といった社会保障費の財政負担が大きな問題となっていることを日本の社会保障制度の歩みや特色とともに理解する。	◎	○	○
		11, 農業と食糧問題	・農業問題としては、日本の食料自給率が他の先進国とくらべて低く、日本の農業の体質強化が課題とされていることを理解する。	◎	○	○
		テーマ 環境をめぐる問題	・市場経済においては市場の失敗として環境破壊があることを外部不経済の視点から理解する。	◎	○	○
	11	第2章現代の国際社会と経済 1, 国際経済のしくみ	・比較優位の考え方について理解させ、自由貿易論と保護貿易論とを対比させながら、現代の貿易問題と関連させて理解する。	◎	○	○
	12	2, 国際収支と為替	・対外経済取引に伴い通貨間の売買が必要になることを理解する。その際、自国通貨と外国通貨の需給関係から為替レートが決まる変動相場制が採用されており、財やサービス、資本の出入りや物価水準、金利差など様々な要因が相場に影響を与えていることを理解する。	◎	○	○
		3, 国際協調と国際経済機関の役割	・国際収支統計の基本的な構成と、日本の対外経済取引の現状について理解する。	◎	○	○
		4, グローバル化と国際経済	・世界貿易機関や国際通貨基金などの国際経済機関が果たす役割や課題について理解する。	◎	○	○
	1	テーマ 国際経済における日本の役割	・持続可能な社会を形成するための政策について理解する。	◎	○	○
			・新興工業国経済について特徴課題について理解する。	◎	○	○
			・現代日本の諸課題、現代の国際社会と政治、国際社会の諸課題は2年次に扱ったため、3年次では扱わない。			